



上海情報 2009年12月号

【情報提供】 【編集 / 提供】 (株)葵ビジネスコンサルタンツ

* 上海葵 Office; 上海日経財務内

: 021-6219-8120 (日本語専用線)

* 東京本部; 横田税務会計事務所内

東京都大田区東馬込 1-12-12 横田会計ビル 2F

: 03-3775-1220 URL: <http://www.aoibc.com>

【ケース・スタディー】

中国会計を主な業務にしていますので、典型的な多数の事例から今後の対応策・解決策をご提案しています。

状 況:

大阪のメーカー A 社は、1992 年から中国企業: B 社と「資本金 70%vs30%」の合併で大連に C 社 & 工場を設立する。

総経理と工場長の日本人 2 名を常時派遣するが、会計責任者は B 社から出向してもらい全てを信頼して任せてきた。毎年の CPA 監査も簡単に承認されて、利益も順調に増えていたので安心していった。

しかし、常時、運転資金が不足していたので、その原因を見つけるために 2008 年に初めて内部監査を 15 年目に実施した。

C 社会計の「B/S」の内訳を調べたら、日本; A 社から大連; C 社への買掛金は「1,000 万日本円」なのに、C 社から A 社への売掛金は、「1 億 1,000 万日本円」の残高と判明して、その差額金額「1 億日本円」と驚かされた。

毎年、「B/S」の内訳が不明で、結果として「約 500 万~2,000 万日本円」が C 社の A 社: 売掛金として増加していた。

問題点:

日本 A 社は、会計業務の全てを中国企業: B 社に任せ、優秀な中国系法人でも実行している日本 A 社との「個別与信管理」を行わず、内訳も知らずに期末監査をすんなりと承認していた。

対応策 :

まず、会計の計上基準を再確認します。

- * 貿易等の「A 社の買掛金」の基準と「C 社の売掛金」の基準が統一してあるか? ; 統一されているならば、原因は大連: C 社の会計担当者の能力不足になります。故意か、過失かは不明です。
- * そして、製造原価計算書と固定資産償却費リストも作成させます。製造業ですので、毎月の決算財務諸表等を「2~3cm」以上になりますが、A 社に送信させます。

* 全ての銀行口座で毎月「残高証明書」を発行させます。有料ですが、小額で発行してくれます。

対応策：

次に、A社はC社の会計業務を全て把握する必要が有ります。

中国会計では、毎月決算を行うので日本A社への売掛金を別の勘定科目「**売掛金：日本A社**」として、毎月残高を外貨「**US \$ or JPY**」でも把握する。

；残高が合わない場合は、直ちに、合併：C社の会計担当者に不一致の原因を調査させる。翌月の決算申告日に間に合わない場合は、翌月に修正させる。差額金額が大きい場合だと、「**罰金も覚悟**」して決算申告を遅らせる。

期末監査時に「A社の買掛金」と「C社の売掛金」が不一致と判明したら、A社は**期末監査報告書に承認印を押さない**。

；申告遅れになってC社は罰金を支払いますが金額が一致するまで、CPAからはもちろん、B社やC社の会計担当者からの苦情や嘆願も無視してください。

期末監査を実施するCPA事務所に、売掛金や買掛金の取引先ごとに「**残高証明**」を確認させます。もちろん、CPAの期末監査費用が、「+20~30%」はアップするでしょう。安心代になります。

将来的には、「月間支払予定表」と「月間支払実績表」を作成させて、「部門管理」までも実行します。

解決策??：

C社の数字を不一致のまま、修正しないと、中国の税務署や日本の税務署から「**移転価格**」や「**脱税**」との疑いを受ける可能性が高くなります。但し、A社は約15年間、C社の期末監査を承認していましたので、A社が自ら差額の原因を見つけ証明して、修正を依頼する必要が出てきました。

もし、差額の原因を突き止めたとしても、今度は、合併先の中国法人：B社や中国税務署を納得させる事が出来るかが、次の大問題になります。

毎月や毎期末に、本社側との売掛金や買掛金が把握できる会計システムや組織作りを実行しなかった日本本社の大ミスになります。

結論：

大連C社の期末監査に関して、日本レベルの会計監査を中国CPA事務所へ要求すれば、このような問題は発生しません！

(上海では、日本レベルの会計監査が可能なCPA事務所もあり、そこへ要求して、行っている日系企業もあります)

アドバイス

中国会計と日本会計の**主な相違**は、2点だけです。

- 「販売原価」は、「個別原価法」だけで算定
- 「製造原価計算書」は、【B/S】に所属

(F:記)
OVTA アドバイザー